

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 2月 8日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271401830		
法人名	有限会社 エス・ワイ・シー		
事業所名	グループホーム クベレ		
所在地	長崎県雲仙市小浜町金浜 422-2		
自己評価作成日	平成 26年 1月 6日	評価結果市町受理日	平成 26年 2月 18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 2月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

ホームからは橘湾が一望でき解放感があります。またテラスからは、潮の香りや裏山の桜や椿・ツワの花で季節感を感じることが出来ます。国道を走る車の往来やマラソンも窓から眺められ、居ながらにして近隣の様子を知ることが出来ます。家庭的な雰囲気を感じ、敷地内の畑で野菜を作り、料理や漬物に利用しています。季節に合わせた行事を実施し、園児や学童との交流や慰問も積極的に行っています。体力維持のため 毎日テレビ体操などを1日2回行っています。希望者にはマッサージ器による足のマッサージをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

建築士の資格を保有される代表者のこだわりを取り入れ、10年前に設立されたホームで、国道に面し車の往来はあるものの、二重ガラスの工夫により喧騒は少なく、入居者は居ながらにして紺碧の橘湾を望む事が出来る。行事への相互参加による幼稚園児との触れ合いや、小、中学生の積極的な受け入れによる福祉体験を通じた交流では、地域での介護の理解浸透を図り、共に協力し合って生きて行くことの重要性を示されている。

管理者をはじめ、設立当初からの経験豊富な職員も多数おられ、規律のある生活の中で、入居者の思いに寄り添った“ゆったり介護”を目指しており、入居者との対話で得られた要望に添った支援をされている。職員同士の連携も良く、細やかな入居者支援は、本人家族の信頼へと繋がっており期待されるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたサービスが出来るよう具体的なケアについて話し合いを行っている。	法人理念を基にホーム目標を職員総意の下に作成し、事務所の壁に掲示されている。毎朝ミーティング時に唱和し、常に念頭に置き、入居者、家族にとって最善の方法を模索し実践に繋がられている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園と交流が多く、鯉のぼりや七夕など互いに訪問し合っている。近くの店に買い物に出かけている。	保育園児、学童との交流や有志グループによる歌や踊りの慰問、或いは近隣住人からの野菜、花の差入れやスーパーでの買物を通じて地域の一員として、日常的に交流がなされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉体験学習や民生委員の施設見学を受け入れている。その時認知症の対応法や介護など話している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、包括支援センター職員や民生委員、家族の代表の方が参加。情報交換等を行っている。	2ヶ月毎に開催され、入居者情報や行事報告、災害等情報交換が行われており、出された意見は検討され、サービス向上に活かされている。今後、会議への理解浸透を図る為、家族への議事録発送を検討されている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援センターの職員とは、運営推進会議等で会う機会があるので、話している。手続等で市の職員とも色々聞いたりにしている。	包括支援センターは会議のメンバーであり情報交換は適宜に行われている。更新手続き等、管理者が窓口訪問や電話で対応されている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「拘束しない」を基本に介護法を話し合っている。今年度も県主催の「身体拘束廃止推進員養成研修」に参加</p>	<p>職員は長崎県主催の研修会に参加され、受講後の勉強会を実施し、職員共有を図られている。安全面を優先する行為が拘束に当たらないか、言葉による拘束がないか等、常に全職員で身体拘束排除に向けた事例検討の機会を設けて入居者本位のケアの実践に取り組まれている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフ会議等で話たり、言葉つかいなど注意し合っている。島原広域主催の「虐待防止啓発講習会」に参加</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>個々に研修会に参加している。包括支援センターや社協と連携し、いつでも相談にのる用意はある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>個々に説明し、理解・納得を得ている。問題点や心配事があれば、その都度対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎年家族会を実施し、意見交換の場を設けている。また面会時に話を伺っている。</p>	<p>年度初めの家族会では職員紹介や災害時の避難方法等伝えることで、家族は、安心を得られている。ホームからの呼びかけにより、全家族での食事会が開催され、更に親睦を深められた。料金持参時の訪問でも意見、要望の傾聴に努め、運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議には必ず経営者、管理者が同席している。シャワーキャーや車イスなど使い勝手の良いものに換えている。</p>	<p>月1回のスタッフ会議には、代表者、管理者も同席し、職員からの率直な意見、提案は直接伝わる仕組みが出来ている。職員の要望、提案を受け、ホーム設備（浴室手摺、リビング電燈、男性便器等々）には随所に改善が見受けられる。また、代表者は、職員の処遇改善にも配慮されている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者から状況を聞いたり、スタッフ会議等で職員の要望など聞いている。休みなど取りやすい環境に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各研修会の参加を促したり、法人内での研修会を実施し介護サービスの向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>島原地区や雲仙市のグループホーム連絡協議会に加入し、風船バレー大会や事例検討勉強会などに参加している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に聞いていた状況を基に、本人の要望を聞きながら、介護サービスを行っている。小まめに声かけをし、話やすい関係を築くようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が求めていることを聞き、ホームとしての役割を説明して、より良いサービスが出来るよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状況を見ながら、改善に向けたサービスの提案等をしている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話や料理の作り方など教えてもらったり、作って頂いたりしている。洗濯ものたたみは、いつもの仕事として楽しんでされている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	面会時は必ず利用者の様子を話したり、気持ちを代弁したりしている。面会や外出など出来る範囲でお願いしている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	馴染みの町通りや住んでいた近くの公園や神社、お店など出かけていたりしている。たまに近所の方が面会に来られている。	散髪は2ヶ月毎の訪問理容を利用されている。入居者の前居住地区へのドライブや初詣参拝等、馴染みの場所との関係が途切れないうよう支援をされている。今後、彼岸に向けて菩提寺参拝の計画も検討されている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考慮し、テーブルの席位置や乗車の組み合わせを決めている。互いに話したり、助け合ったりする場面が見られる。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院後退所された時は、お見舞いに行ったり、家族に様子を訊いたりしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や表情・様子などで、利用者の希望や意向を把握するよう努めている。スタッフ会議等で希望に沿うような方向で話し合っている。	管理者は、職員に対し入居者を常に会話の中に誘い、入居者の思いや意向を引き出す様に指導されており、内容は、記録されている。意思疎通が困難な入居者には、相性が良い職員が対応する等思いや意向の把握に努められている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から話を聞いている。面会に来られた方からもそれとなく聞くこともあり、大体把握できていると思う。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズム優先しながら、自分で出来るよう声かけや誘導をしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の様子から伺える希望や意向を考えながら、スタッフ会議等で介護サービスについて話し合っている。それを基に介護計画を立てている。	家族会や面会時での家族の意見要望と共に、日々の記録での本人の状況を基に全職員が意見を出し合い、担当者が介護計画を作成している。モニタリングは3カ月で見直しは6カ月毎に実施され、状況変化があれば、随時見直しをされている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録に記載。毎日のミーティングでも情報交換をし、介護の見直しに活用している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に伴い介護の仕方や受診などの話し合いをし、出来る範囲で希望に沿ったサービスを行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には包括支援センターの職員や民生委員が出席されているので、そこで情報交換をしている。また地元の消防団の方も見られることもある。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があれば今までのかかりつけ医の受診を支援している。	協力医の週1回の往診がある為、入居時、かかりつけ医から協力医に変更された入居者もおられる。かかりつけ医は、職員同行で支援されている。看護師による週1回の訪問看護があり、本人、家族の安心へ繋がっている。緊急時の連絡網も掲示され、体制を整えられている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回専従の看護師が利用者の健康状態をチェックしている。介護職員が日頃の様子を伝えたり、看護師から、助言をもらったりしている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や相談員と早期の退院に向け、家族と相談しながら連絡をとっている。入院中 時々見舞いに行っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、当ホームで出来ること出来ないことを、入居時に説明している。家族の協力をお願いしている。	看取りの経験はないが、今後、本人、家族の要望があれば 医師、看護師、家族と連携を取りながら医療行為を伴わない看取りは対応の方針を示されている。終末期ケアに於ける内部研修により職員の意識向上も必要と考えられている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作り、時々再確認し合っている。救命救急の講習会にも参加している。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防署の指導の下で訓練を実施。地域の消防団とも交流がある。台風直撃が予想される時は千々石のクベレへ避難することも考えている。	年2回消防署立会、夜間想定自主火災訓練を入居者参加で実施されている。海岸に近く台風直撃が予想される際は、事前に法人施設への避難を想定されている。緊急時の飲料水は、地下水を受水槽に確保されており、3日間の食料も備蓄されている。	近隣民家は少ないが、親交が深い両隣の民家へは、今後、災害訓練時の参加と火災通報先の追加登録を依頼され、緊急時の協力体制を築かれることに期待したい。備蓄はされているが、再度、食料品、生活必需品の見直しを検討され一覧表により一括管理をされることが望まれる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>介助する時は、利用者にとどうしたいのか尋ねてから行っている。言葉使いも上から目線にならないよう互いに注意している。</p> <p>職員は、県主催の「身体拘束廃止推進員養成研修会」に参加し、ミーティングで、報告会もある。法人内研修も全員参加必須で共有を図られている。入居者には、常に意思確認をし、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をされている。個人情報ファイルは事務所に保管管理されている。</p>
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>利用者に合わせいくつか選択肢をあげて決めている。意思表示が困難な方には表情や手の動きなどで理解し、声かけを多くしながら行っている。</p>
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>大体一日の流れに沿って生活されているが、リビングで過ごされたり、居室で休んだり本人のペースで過ごされている。</p>
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>それぞれの生活習慣に合わせて支援している。外出や行事のある日は、本人に聞きながらきちんとした服装に着替えている。</p>
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>敷地内の畑で採れた野菜や野草の皮をむいたり、味をみてもらったりしている。おしぼり巻きも利用者がされている。</p> <p>入居者の好みを考慮し、野菜中心で職員手作りの食事が提供されている。おやつも喉に詰まらせない様に職員各々が工夫を凝らして作られており、夕食には必ずフルーツ入りの手作りヨーグルトが食膳に上がり、入居者の便秘予防にも配慮されている。ホーム菜園で収穫された野菜や近隣住人からの差入れ野菜を使用している漬物も入居者の楽しみとなっている。茶碗洗いや皮むき等、調理参加で入居者の自立支援もされている。</p>
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>入居者の好き嫌いや摂取量を把握し、栄養バランスを考えて作っている。飲み込みが悪い方には、トロミをつけたり、ペースト状にしたりしている。</p>
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>毎食後口腔ケアの声かけ・誘導をしている。出来ない方には職員が介助している。入れ歯の方は、寝る前必ず消毒液に浸けて頂いている。</p>

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は出来るだけトイレにて排泄されるよう声かけや時間見での誘導を行っている。	排泄シートにより入居者のパターンを把握されており、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援されている。常に入居者の状況に応じた対応を職員で協議し支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理には野菜やいも類を多く使っている。フルーツやヨーグルトも毎日食べて頂いている。水分補給に注意し、3日以上排便がない時は朝一に冷たい牛乳を飲んで頂いたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望や体調を優先して入浴して頂いている。菖蒲湯やゆず湯なども楽しんで頂いている。重度の方のためにシャワーキャリーを購入した。	基本は1日置きの入浴支援であるが、状況に応じてその都度、入浴可能で清潔にも配慮されている。浴室からは、眼下に海が臨め、職員との会話も楽しみの一つとなっている。職員の提案により改善された箇所が見受けられ入居者の安心安全、職員の負担軽減への配慮もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ好きな時間に就寝されている。寒い時はアンカを入れたり、加湿のため濡れタオルをかけたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬情報を作成しており、服薬マニュアルに沿って支援している。本人の状態や変化は随時医師・看護師に報告している。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や洗濯物たみ、ツワの皮むきやゴボウのささがきなど日々の生活の中で出来ることを支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には買い物やドライブなどに出かけている。お弁当を持って出かけることもある。テラスで食事やおやつを食べたりしている。	年間行事が多彩に計画され、花見やドライブ等外出支援に努められている。ホーム菜園での種まき風景では入居者の楽しみと気分転換が図られている。収穫した野菜を話題にして、職員との対話を楽しまれている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意思にまかせている。所持金を持っている方には、誘導・見守りで支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由に取次している。はがきを読んだり、代筆で出すこともある。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・台所・廊下は仕切りがないので、一目でわかる。季節に合わせた飾り物、花などを飾っている。温度・湿度に注意し空調管理をしている。	季節の花が活けられた玄関を入るとリビングは明るく開放的で、木をふんだんに使用した高い天井にはシーリングファンが回り、暖房による熱を下に還流させ温度を保つ工夫がされている。壁には行事参加で喜ぶ入居者の写真が飾られ家庭的で、職員の見守りの中、ゆったりと過ごしておられた。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとダイニングが一続きになっているので、好みの場所で過ごされている。また廊下の突き当たりにもイスを置いて日向ぼっこされている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みのあるものを持って来て頂いている。自分で出来ることは、しやすように配置を考えている。	居室は写真やぬいぐるみ等飾られ使い慣れたベッドも持ち込みされている。掃き出し窓には冬は耐寒フィルムが貼られ寒さ対策にも配慮されており、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの増設、トイレや居室のネームプレートなど ひとりでも出来る環境を心がけている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない